



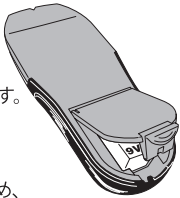
壁裏チェッカーWBS-38は下記の4つの探知機能を備えています。さらに、画期的な カラーディスプレイで色別に起動中の探知モードをお知らせします。梁・間柱探知用の「浅」・「深」モード起動中は緑、金属モードでは青、電線モードでは赤と、モード切替時にバックライトの色も自動的に切り替わります。「浅」・「深」モードもしくは金属モードを起動中に通電中の電線を感知すると、バックライトが赤に変色または点滅してお知らせします。

- ・「浅(△)」モード:木製または金属製の梁や間柱の『中心』と『端』を最大 19 mmの深さまで探知可能
- ・「深(△)」モード:木製または金属製の梁や間柱の『中心』と『端』を最大 38 mmの深さまで探知可能
- ・金属(Ⓜ)モード:鉄筋(約13 mmの直径の場合)のような鉄(磁性)金属なら 76 mmの深さまで探知可能
非鉄(非磁性)金属なら 38 mmの深さまで探知可能
- ・電線(⚡)モード:通電中のシールド無し交流電線(AC)を 50 mm の深さまで探知可能

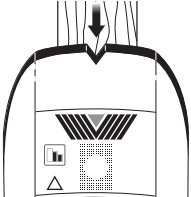
1. 電池の取り付け・交換

本体裏側下方の電池ケースカバーのつまみを押して、カバーを開けてください。プラス(+)とマイナス(-)の端末をケース内に印刷された図に合わせて、**新しい**9ボルトの角電池を挿入してください。電池をしっかり押し込み、カバーを閉めます。

電池残量表示:電池の残りが少なくなると、電池残量表示が液晶画面上に現れます。この時点では本体は作動しますが、できるだけ早く新しい電池に交換してください。電池残量表示し始め、画面上にその他の表示が何も現れない場合は、電池残量が本体の作動に必要なレベルを下回ったことを意味します。直ぐに新しい電池に取り替えてください。



梁や間柱が深い位置にある(壁が厚い)場合は、梁・間柱の『中心』を探知すると、シグナル強度バー 2本と矢印ポインター、ターゲットバー中央の▽のみが表示されます。それでも梁・間柱が見つからない時は、「深(△)」モードに切り替えて探知を行ってください。液晶画面上の緑のバックライトと二重三角形サイン(△)が「深」モード起動中であることを視覚的に示します。



6. 電線警告探知機能

電線警告探知機能は「浅」、「深」、金属モード起動中常時作動しています。通電中の AC (交流) 電圧を感知すると電線警告サインが画面上に表示され、画面のバックライトが赤に変わります。電圧が感知されなくなるとサインとバックライトが消え、元の画面の状態に戻ります。探知が通電線上で開始された場合は電線警告サインと赤のバックライトが継続的に点滅します。このような状況下や、通電線が存在する場合は充分注意をしてください。

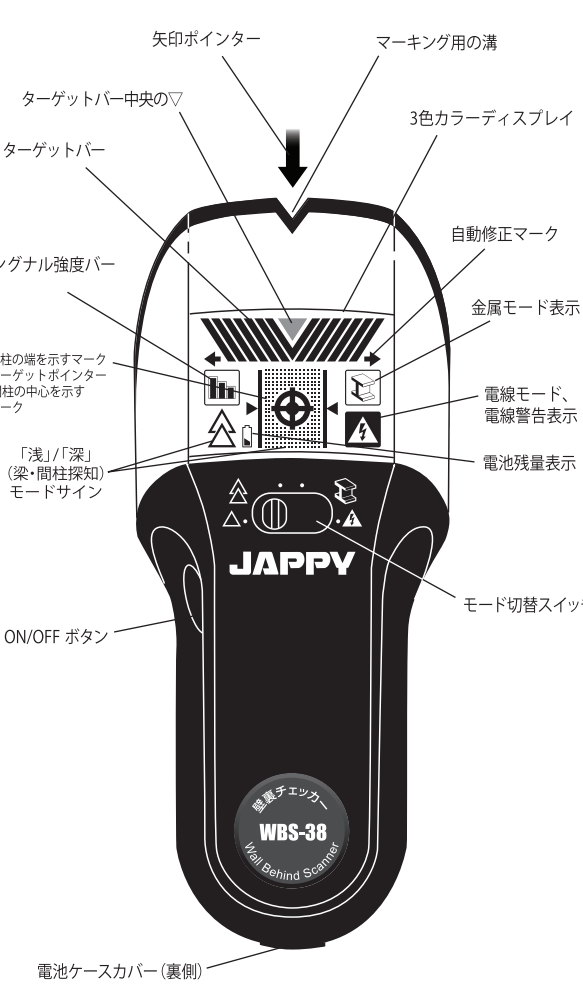
⚠警告 僅測だけで壁内に通電中の電線がないと判断しないでください。壁内に通電中の電線がある場合は、危険な行動を取らないでください。穴あけを行う前に、常に電源、ガス、および水道をオフにしてください。これらの指示に従わない場合、感電、火災、ケガなど思わぬ事故を引き起こす危険性があります。電線の近くで作業する時は常に電源を切ってください。

⚠注意 電線が探知表面から 5 cm 以上離れている場合、コンクリートや導管内にある場合、合板壁や金属製の壁面カバーの裏側にある場合、または壁内や探知環境に湿気がある場合、通電中の電線を探知できないことがあります。

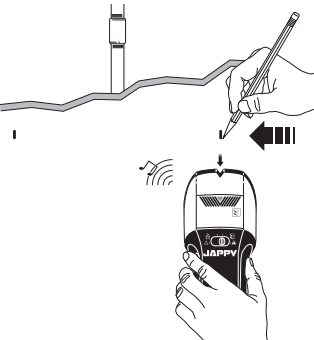
7. 金属探知(Ⓜ)

- 1.モード切替スイッチを金属(Ⓜ)モードに設定します。本体を壁上にピッタリと置きON/OFF ボタンを押します。この時ボタンは放さず、押し続けたままにしてください。ピーツという短い音で調整完了を確認したら、探知を開始します。液晶画面上の青のバックライトと鉄型サイン(Ⓜ)が金属モード起動中であることを視覚的に示します。
- 2.(図A) ON/OFF ボタンを押したままの状態を本体を横方向にゆっくりとスライドさせます。金属探知表示が最大に達した地点(画面上に最大数のターゲットバーが現れる)に印を付けます。シグナルの強いターゲットの場合は矢印ポインターも作動して照射し、連続的に音が鳴ります。画面上のバーの本数が減少するまで同じ方向に動かし続けます。
- 3.ON/OFF ボタンを押したままの状態でバーの本数が減少し始めたら、今度は反対方向(印を付けた方向に向かって)に動かし、先ほど同様表示が最大に達した地点に印を付けます。この二つの印の真ん中が探知された金属物の中心となります。

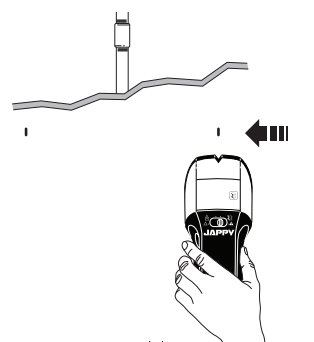
相互キャリブレーション機能
「相互キャリブレーション」機能とは、探知物付近で調整することにより本製品の感度を意図的に低める行為を意味します。金属モード使用中、この「相互キャリブレーション」機能を使って金属探知用の感度を調節することができます。この機能は広範囲で多数の金属物が探知



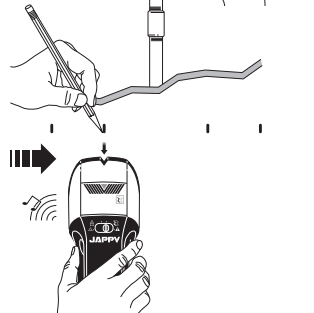
図A



図B



図C



2. 操作上のヒント

最適な探知結果を得るため、壁裏チェッカーWBS-38を正しく持ち、ゆっくりと動かしてください。下記のヒントはさらに正確な探知結果を得るための参考にしてください。

- ・右手の親指が片側、残りの指がもう片側にくるようにして本体のハンドル部をつかみます。この時指先がハンドル部上に置かれ、探知表面や探知機能頭部などに接触していないよう注意してください。
- ・本体を真っ直ぐに持ち、間柱に対して平行になるようにします。この時傾いたりしないよう注意してください。

- ・本体裏面をしっかりと壁に付け、「ON」ボタンを押し続けながらゆっくりとスライドさせて探知してください。この時、探知中に本体を揺らしたり、傾けたり、壁から浮かせたりしないように注意してください。

- ・探知開始の「ON」ボタンは、本体裏面に壁にぴたりと押し当たっている状態で押してください。プザーが短くなれば探知が開始できます。

- ・もう片方の手や身体他の部分が探知表面に触れないようにしてください。探知結果に影響を及ぼす可能性があります。

- ・探知結果に一貫性がない場合、湿度、壁内の空洞やせっこうボード壁内に溜まった水分、または最近塗られた塗料や壁紙がまだ完全に乾いていないことなどが理由に挙げられます。湿気はいつも目に見えるというわけではありません。条件により、製品のセンサー機能に影響していることがあります。壁が完全に乾燥するまで数日間待ってください。

- ・電線や配管の深さによって、これらの物体も梁や間柱と同じように探知されることがあります。このような物体を含んでいる可能性がある壁や床、そして天井への釘打ち、切断、あるいは穴開けをする際には常に注意してください。

- ・間柱や梁は通常約 40~60 cm の間隔で設置され、その幅は 38 mm 程であることを覚えておってください。これよりも近くに隣接しているものや異なる幅のものは、間柱、梁、防火帯以外のものである可能性があります。ご注意ください。

- ・「浅」・「深」モードまたは金属モード起動中に画面のバックライトが赤に変色または点滅した場合は、通電線を感知したことを意味します。釘打ち、切断、または穴開け作業をする時は注意をして行ってください。電線の近くで作業する時は常に電源を切ってください。



異なる壁面上での探知

壁紙: 壁裏チェッカーWBS-38は、素材が金属箔や金属繊維であったり、塗ったばかりでまだ乾いていない状態にある壁を除いては、通常壁紙や布で覆われている壁上でも問題なく探知します。壁紙は、完全に乾くのに塗布後数週間必要になることもあります。

塗装直後の壁: 乾くのに一週間、またはそれ以上かかることもあります。

ラス、漆喰、珪藻土壁: 探知箇所となる壁面の厚み(密度)に一貫性の無い素材壁は、正常に探知し難い場合があります。このような場合は金属モードに切り替え、梁や間柱に固定させるために打ち付けられた釘やネジ(ビス)を探知してください。ただし、壁内に補強用の金属メッシュが埋め込まれている場合は探知することができません。ご了承ください。

表面加工されている壁、または音響天井: デコボコ天井や壁面上を探知する時は薄めのボール紙を表面に置き、その上から「深」モードで探知してください。不規則な探知結果が出た時は金属モードに切り替え、梁や間柱に沿って縦方向に打ち付けられた釘やせっこうボード用のネジを探知してください。

木製フロアリング、下張り、またはベニヤ板上のせっこうボード: 「深」モードに切り替え、本体をゆっくりと動かしてください。厚い壁や床を通して梁・間柱を探知した場合、シグナル強度バーが1本か2本しか現れないこともあります。壁裏チェッカーWBS-38は、コンクリート、またはカーペットやパッドを通して木製の梁・間柱を探知することはできません。このような場合には、金属モードに切り替え、梁や間柱に固定させるため間柱に沿って縦に打ち付けられた釘やせっこうボード用のネジを探知してください。

注: センサーの機能する深さ及び精度は、壁の湿気、素材の成分、壁の材質、塗料の種類によって影響を受け変動する場合があります。

注: 壁裏チェッカー WBS-38は室内壁専用の壁裏探知器です。

⚠注意 完全に探知器だけを頼らず、壁の図面、壁表面に見える配管や電線の挿入箇所、および通常の間柱の設置間隔など、他の情報も考慮に入れ作業を行ってください。

3. モードの選択

モード切替スイッチをお好みのモードに設定します。

- ・「浅(△)」モード: 壁の厚さ 19 mm 以下の壁裏にある、木製または金属の梁や間柱の探知用です。起動中はバックライトが「緑色」になります。
- ・「深(△)」モード: 壁の厚さ 38 mm 以下の壁裏にある、木製または金属の梁や間柱の探知用です。起動中は「浅(△)」モード同様にバックライトが「緑色」になります。
- ・「金属(Ⓜ)」モード: 金属探知専用です。(銅管なら 38 mm まで、鉄筋なら 76 mm まで) 起動中はバックライトが「青色」になります。
- ・「電線(⚡)」モード: 通電中の AC (交流) 電圧探知専用です。起動中はバックライトが「赤色」になります。

ON/OFF ボタンを押さない限り、本体は起動しません。

9. 役に立つヒント(「2.操作上のヒント」も参照してください)

状況	考えられる原因	解決方法
「浅」モード内で梁や間柱以外の物を探知する。 実際に存在する以外のターゲットを探知する。	・電線と金属またはプラスチック配管が壁の裏面に近接または接触している可能性がある。	・金属と電線の両方のモードで探知し、金属や通電中の電線が存在するかを確認してください。 ・梁や間柱は一般的に約 30 cm、40 cm、60 cm 置きの間隔で設置されているので、それを確認してください。また、当初の探知箇所の上下をチェックして同じ間柱かどうかを確認してください。 ・間柱の場合は、探知範囲の幅が通常約38mmになります。これより狭かったり広かったりする場合、ドアや窓枠の近くを除いては、探知したターゲットは間柱以外の物体である可能性があります。
電線探知結果が実際の電線よりもはるかに大きな幅で表示される(電線モードのみ)。	・電線探知はせっこうボード壁上では、実際の電線の各側から最大30 cm まで広がることある。	・探知を狭めるには、電線が探知された箇所の端部で本体の電源をオンオフ(相互キャリブレーション)して、再度探知を行ってください。
金属探知ができない。	・金属物上で調整が行われた。 ・金属物がとても小さい、あるいは壁の奥深くに存在する。	・金属物上で調整が行われ、感度が低くなった可能性があります。別の場所でもう一度調整を行ってください。 ・縦横両方向に探知をしてください。金属探知感度は、金属物が本体液晶画面のすぐ上に位置する探知センサーと平行している時に増加します。
金属探知範囲が、実際の金属物よりかなり大きく表示される。	・金属は木よりも密度が高い。	・感度を低めるため、壁裏チェッカーWBS-38を既に付けられた二つの印の間で再調整を(相互キャリブレーション)行ってください(金属・電線モードのみ)。
窓やドアの近くで間柱の測定が一定している。	・通常ドアや窓の周りは二重・三重の間柱が使用されている。また、その上方には頑強なヘッダーが使用されている。	・どこから探知を開始するかを確認するため、外側(外枠)を探知してください。
液晶画面が赤く点滅する。	・調整・探知が通電線上で行われた。	・ON/OFF ボタンから一度手を離し、本体を 7~8 cm 右か左に動かし、再度調整・探知を行なってください。
電線の存在が疑われるのだが、何も探知されない。	・電線が金属製の壁面カバー、ベニヤ合板壁、またはその他の密度の濃い素材の背部、または導管内でシールドされている可能性がある。 ・表面から 5 cm 以上深い電線は探知されないことがある。 ・電線が通電していない可能性がある。	・金属モードを使って金属、電線、または金属製の配管が探知できるかを確認してください。 ・ベニヤ板、せっこうボード裏側にある厚い木製の裏張り、または普通よりも厚い壁が存在する場合は、特に注意をしてください。 ・スイッチでコンセントをコントロールする場合は、探知の際に必ずそれをオンにしておいてください。ただし、電線の近くで作業するときはオフにしてください。 これらの物質が存在する可能性がある場所で、壁、天井への釘打ち、切断、または穴開け作業をする時は注意をして行ってください。
電池残量表示が点滅し、本体が作動しない。	・電池残量が低過ぎて本体が正常に作動しない。	・新しいアルカリ乾電池(9 ボルト角形)と交換してください。

保証書	保証規定	（お問合わせ先）
本保証書は、お買い上げの日から保証期間の間で発生した故障等について無償修理または無償交換を保証するものです。 ・製品名: 壁裏チェッカー ・品 番: WBS-38	1. 本製品を購入した際のレシートまたは領収書等の証明によってお買い上げ日になります。 2. 取扱説明書に従った正常なご使用状態で、保証期間内に故障した場合には無償修理、または同等製品との無償交換をいたします。 3. 保証期間中の修理または交換をご依頼になる場合は、お買い上げの販売店にお申し付けください。 4. 本保証書でも次のような場合には、有償修理となります。 ①本保証書と購入した際の領収書等のご提示がない場合。 ②ご使用上の誤り、不当な修理や改造による故障および損傷。 ③お買い上げの後の輸送、移動時の落下などお取り扱い扱いが不適切なために生じた故障および損傷。 ④火災、地震、水害、その他の天災地変、公害など外部要因による故障および損傷。	発売元 因幡電機産業株式会社 大阪市西区立売堀4-11-14 https://www.inaba.co.jp/jappy/ 
保証期間: お買い上げ日より1年間		P/N 71173 Rev B 02/21